

発刊に際して

教養課程主任 菊池 實

大学は教養課程において一般教育を行なっているがどうも学生の評判は
かんばしくない。とくに理工系の大学や工学部では更によくはない。このこ
とは10年程前の大学紛争のとき強く指摘された所である。しかしまた高度
成長強行の結果は社会の各方面に深刻な歪を生じ、その後遺症は今も続い
ている。これは科学技術優先の結果、技術者が人間性を忘れたところにも
責任の一半はある。更に将来科学技術の進展が社会に大きな影響を与える
ことを思うとき、技術者養成教育における一般教育の役割は非常に大きな
ものである。理工系の学生は外国語や数学、物理、化学などはすぐ必要と
いう事から力を入れるが、人文とか社会学などには余り関心をもたない。
これは人文、社会などはすぐには役に立たないとの考え方によるものと思
われるが、このような方面こそ人間形成において知らず知らずのうちに肥
料になっていく筈である。ここにこそ技術者養成を目的とする工業大学に
おいて一般教育に力を入れるべき意義がある。本学は人間性豊かな技術者
の養成を目ざしている。幸い一般教育の為には若くてすぐれた先生が集ま
った。この度紀要発刊の声が上がり、数篇の論文が集まった。いずれも力
のこもった充実したもの許りで創刊号にふさわしいものと自負している。
大方の批正を請う次第である。

昭和59年新春